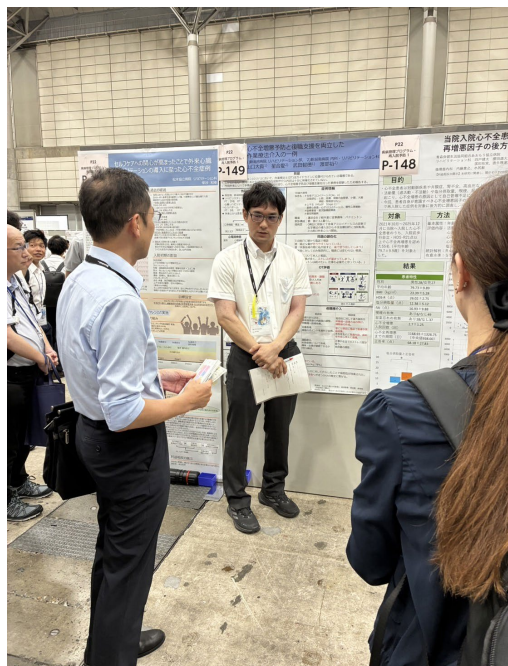


第32回日本心臓リハビリテーション学会学術集会



2026年7月18日～19日に幕張メッセで第32回日本心臓リハビリテーション学会学術集会に内藤医師・櫻田PTが参加し、四戸OTが発表してきました。

今回当院からは、「当院入院心不全患者における再増悪因子の後方視的検討」というテーマで発表を行いました。心不全増悪因子は、不整脈や弁膜症といった基礎疾患だけでなく、食生活や服薬管理、過活動・不活動などの生活習慣の乱れでも起こりうる事が知られています。そこで、患者自身が生活の中で気を付けるべきことは何かを把握し患者教育に役立てるべく調査しました。

生活習慣における心不全増悪因子は単一ではなく理解度に応じた患者・家族教育が必要ではないかという結果となりました。

心不全患者は脆弱期と呼ばれる退院後約3ヶ月は再入院や死亡リスクが高くなるといわれています。2026年6月診療報酬改定より、早期から多職種で連携し継続的な疾病管理・指導を強化し、心不全再入院を防ぐことを目的として心不全再入院予防継続管理料が新設されました。今回の研究発表や新たな知見・他施設での心不全再入院予防のための取り組みをチーム内で共有し少しでも地域に貢献できるよう努めていきます。

～こぼれ話～四戸OTより

今回の学会では、他県の民医連の方々ともお会いすることが出来ました。発表前で緊張していましたが、少し緊張がほぐれました。

循環器懇話会でしか会う事が無いので、学会などで会うと心強い味方となり、改めて民医連ならではの繋がりの良さを実感しました。今年も循環器懇話会が東京(11/6～7)で行われるためぜひ参加したいです。

